

2023. 4 vol. 120

改訂版 vol. 50

女性委員会だより

らくだ



公益社団法人 岐阜県建築士会

〒500-8384 岐阜市藪田南5丁目14番12号

岐阜県シンクタンク庁舎4階

〈電話〉(058) 215-9361 〈FAX〉(058) 215-9367



はじめに

■新年度に向けて

女性委員長 高野 栄子

日頃は、女性委員会の活動にご協力頂きありがとうございます。今年度も引き続き委員長を勤めさせて頂きます。よろしく願いいたします。

私たちの生活を一変させたコロナ感染症も落ち着き、世の中もコロナ渦前に戻りつつあります。マスクの着用義務もなくなり、感染症の分類も変更されます。やっと通常の日常生活をおくれるような日々になりそうです。

今年度は女性委員会としても見学会やセミナーなど皆さんの仕事や生活に役立つ活動を積極的に進めて行けたら良いなと思っております。東海北陸ブロック会女性建築士協議会や全国女性建築士連絡協議会など対外活動も正常化し、いろいろな活動を通して知見を広める機会が増えると思います。時代に合わせて委員会活動も変えていき、皆さんが参加しやすい、参加したくなるような委員会にして行ければ良いなと思います。

また昨年度やっと後期ブロックぎふ下呂大会が終わったところですが、すぐ次の大会の準備に取りかからなくてはなりません。活動できる人数も時間も限られておりなかなか大変ですが、やるからには、できる限りの準備を進め、よりよい内容を考え、過去の経験を踏まえて、参加者の方々に来て良かったと思って頂ける会にしたいと思います。日々仕事に家事にお忙しいところもうしわけありませんがご協力よろしくお願いいたします。

最後に人口減少の中、建設業に従事する人が減り、建

築士全体の人数も減り、建築士会の会員数も減少しております。建築士会の中で、同じ資格を持ち、同じ業界で働く者同士集まり、交流し、知識や意欲を高め合っていける事は有意義だと思います。ぜひ女性委員会の魅力を高め、ひとりでも一緒に活動できる仲間を増やして行けたら良いなと思っております。



今回の記事

◇ はじめに

◇ 今回の記事

◇ 今後の予定・お知らせ

◇ 第64回建築士会全国大会「あきた大会」

日 時:令和4年10月14日(金)

会 場:あきた芸術劇場ミルハス

(秋田市千秋明德町 2-52)

◇ 建物改修ワークショップ「磯野家の25年後」

日 時:令和4年11月16日(水)

会 場:OKB ふれあい会館 401 会議室

◇ 第6回 たくみ女子会

日 時:令和4年12月17日(土)

会 場:OKB ふれあい会館 展望レセプションルーム

◇ 建築士会東海北陸ブロック会女性建築士協議会
令和4年度後期ブロックぎふ下呂大会

日 時:令和5年2月25日(土)~26日(日)

会 場:下呂市民会館 大会議室、下呂温泉 水明館

◇ 第21回 気楽にらくだ会
岐阜県庁新庁舎の見学会

日 時:令和5年3月1日(水)

会 場:岐阜県庁新庁舎

(行政棟・議会棟)

◇ 編集後記



今後の予定・お知らせ

◆ 令和5年度 東海北陸ブロック会女性建築士協議会
前期定例(富山)会議(WEB 会議)
日時: 令和5年6月25日(日)

◆ 令和5年度 全国女性建築士連絡協議会石川大会
日時: 令和5年7月29日(土)～30日(日)

第64回建築士会全国大会「あきた大会」

日時: 令和4年10月14日(金)
会場: あきた芸術劇場ミルハス

(秋田市千秋明德町 2-52)

テーマ:『建築』で挑戦! 郷土のこれから
～け、け、けの秋田で まずかだれ～

参加者: 4名



会場(あきた芸術劇場ミルハス)入り口にて集合写真

■ 第64回 建築士会全国大会 あきた大会に参加して

報告者: 長瀬 八州余

大会は10月14日ですが、前乗りで13日に秋田市に行きました。桂川さんと私は新幹線で、高野さんと伊藤さんは飛行機での移動でした。

14日は早めに会場へ行って、会場内を見学して、10時から各セッションに参加します。

会場の「あきた芸術劇場ミルハス」は、新たな秋田の文化芸術の創造拠点として、2022年6月、秋田市千秋明德町の秋田県民会館跡地に開館しました。秋田県と秋田市が共同で整備した全国でも例のない文化施設です。



(↑お堀越しに会場を見る)

秋田駅から徒歩10分ぐらいで、移動の楽な会場設定でした。

千秋公園(久保田城跡)周りのお堀には蓮が植わっていました。季節には蓮の花が咲いてきれいだろうなあと思いました。

名札等は事前に岐阜県建築士会事務局へ送られていたのですが、大会冊子等を受付でもらいます。セッション会場はミルハスだけではなく、周辺の建物も利用しています。各々の会場へ向かいました。

私はミルハスが会場だったので、3階ホワイエに展示してある「女性委員会 ポスターセッション」のパネルを見てきました。



(↑ポスターセッションのパネル展示の様子)

福祉まちづくりセッションに参加の桂川さんは、当日の発表もあるので前日からのリハーサルに参加で忙しそうでした。

当日も朝早くに出かけていました。

高野さんは歴史まちづくりセッション、伊藤さんは景観・街中(空き家)まちづくりセッション、長瀬は女性委員会セッションへ参加しました。

一部のセッションでは ZOOM 等を利用しての一般参加もあったようです。

セッション終了後、昼食会場で集まり、予約していたお弁当をいただきました。

今回お弁当は2種類あり 鶏めし(900円)と秋田の弁当「け」!(1,200円)でした。お茶は付いていませんでした。



(↑鶏めし)



(↑食事会場の様子)

13:00 から大ホールにて記念対談がおこなわれ、15:00 からは大ホールにて式典がおこなわれました。会場が同じだったので、移動する事なく楽でした。



(↑記念対談の様子)



(↑式典のオープニングセレモニー なまはげ太鼓の様子)

式典後、徒歩にてすぐ側の「秋田キャッスルホテル」へ移動して、大交流会に参加しました。岐阜県からは私た

ち4名と石黒会長、前会長の藤井さんが参加されました。



(↑懇親会の様子)

19:30 頃閉会となり、徒歩にてホテルへ戻りました。

お天気がよく、暑いぐらいの天候でした。

15日は、エキスカンションに参加です。伊藤さんはHコースの「白井晟一 秋田時代を探る」に参加し、そのまま飛行機で帰路につきました。

桂川さんと長瀬はGコース「商家のまちなみと内蔵の探訪」に参加です。Gコースでは石黒会長もご一緒でした。



(↑増田町 日の丸醸造本社 内蔵前にて)

私たち二人は、秋田でもう一泊して、16日は秋田県女性委員会が「和の空間ガイドブック」で紹介していた角間川地区の3住宅(旧本郷家住宅、旧北島家住宅、旧荒川家住宅)を見学して、帰路につきました。



(↑3住宅のたたずまい)

秋田県では珍しく4日間ともお天気がよく、上着の必要もないぐらいの暑い天気でした。

今回の大会参加者は、申し込みは約 2,000 名で実質は 1,600 名ぐらいではないかということでした。

式典で秋田県会長の淡路氏が準備期間5年と話していました。コロナ禍で1年広島大会が延期になっているので、増えたのでしょうか。運営にあたり、いろいろとご苦労なことがあったと思います。

初めての秋田県で楽しい時間を過ごすことができ、秋田県建築士会の皆様ありがとうございました。

■ 記念対談報告

報告者: 高野 栄子

演題「秋田杉、そして建築の挑戦」
～「“秋田発”世界標準の大学」を支える「美しすぎる図書館」～

モンテ・カセム氏
国際教養大学理事長・学長

仙田 満 氏
建築家(中島記念図書館の設計者)

秋田市には偏差値は東大並み、就職率 100%のグローバルスタンダード大学である国際教養大学があります。その大学にある 24 時間、365 日開館している「中島記念図書館」についてのお話でした。私は実際に2度この図書館とこの大学を訪れる機会があり、その思い出と共に興味深く話を聞きました。

この図書館は、RC造の中に木構造を取り入れた混構造で、段状書架と傘型屋根が特徴の建物です。「本のコロセウム」をテーマに安らぎのある空間で学生に学習意欲を喚起させるそうです。

日本の三大美林とされる秋田杉をふんだんに使った屋根は秋田の雪対策で、落雪屋根になっているようです。またその秋田杉は市場流通材を使用し、ハイサイドライトや伝統技法を用い、繊細で奥行きのある空間を演出しているとのことでした。

問題点としては冬の暖気が上へ流れ下段が寒いということがあり、空調については課題があるようでした。

この図書館を設計した事務所がそのあとで設計したのが、石川県立図書館だそうです。

秋田の図書館の発展系として作ったそうです。次年度は全建女が石川県で開催されますのでぜひ石川県立図書館を見学したいと思いました。

秋田にとってこの大学とこの図書館が「シビックプライド」であることをよく理解できる対談でした。また秋田杉に興味を沸かす内容でした。とても勉強になりました。



(↑ 会場の様子)

■大会式典に参加して

報告者:伊藤 麻子

あきた芸術劇場ミルハス大ホールにて午後 3 時から始まりました。照明が落ち太鼓が打ち鳴らされる中、不意にホール後面入り口から「わりいごはいねがあ〜！」とナマハゲが 4-5 人入場してステージにあがり、勇壮な太鼓と振りで我々を魅了してくれました。気づけば参加者で大ホールはほぼ満員となり、久しぶりに気分が高揚しました。

秋田県建築士会副会長の開会宣言に始まり、秋田県建築士会会長、近角連合会長のお話があり続いて、国交省大臣(代理)、林野庁長官、秋田県副知事、秋田市副市長らご来賓のご挨拶がありました。

国産木材、特に杉について記念対談のテーマにも取り上げられるように今回のキーワードになっているようです。ミルハスの外部内部は浮造りの杉板を型枠としたコンクリート壁面の陰影が美しく、また大ホールの内壁にも割肌調の杉のブロックが用いられていて、秋田の人たちの杉に対する深い造詣がうかがい知れました。



(↑ なまはげ太鼓のオープニング)



(↑ 次の全国大会は静岡県です。)

■大交流会に参加して

報告者:伊藤 麻子

会場はミルハスのすぐ近くの秋田キャッスルホテルで行われました。ナマハゲ、ミス秋田も乾杯に参加して華やかに始まりました。大変な賑わいではありましたが、黙食とマスク着用での会話は守られていたと思います。秋田は米どころ、酒どころということで、塩むすびが各テーブルにあり、日本酒の飲み比べもできました。乾杯の時の日本酒といぶりがっこ、きりたんぼ汁が美味でした。アトラクションでは秋田音頭の踊りとお囃子でとても楽しく盛り上がることができました。最後に秋田県建築士会副会長が締めのご挨拶の際、声を詰まらせる場面があり、コロナ禍のなかでの実現はいかに大変だったかが想像できました。



(↑懇親会場の様子)

■セッション参加報告

交流セッション10プログラム有る内の

- 1, 女性委員会……………長瀬
- 2, 景観・街中(空き家)まちづくり…伊藤
- 3, 福祉まちづくり……………桂川
- 4, 歴史まちづくり……………高野

以上4つに参加しました。

1, 女性委員会セッションに参加して

報告者:長瀬 八州余

和の空間の魅力を探る ふあいなる～これから～

「魅力ある和の空間ガイドブック(WEB版)」の活用

会場:あきた芸術劇場ミルハス 地下1階 小ホールB

参加者 対 面:登録75名 実質60名

WEB:27名

開会の挨拶で本間連合会女性委員長の挨拶に始まり、開催県の秋田建築士会女性委員長松橋さんの挨拶



(↑なまはげとミス秋田)



(↑秋田音頭の踊り)

があり、令和4年度第31回全国女性建築士連絡協議会東京大会の報告が、筒井副委員長より、リモートにて有りました。



(↑ 本間委員長の挨拶の様子)



(↑ 秋田県建築士会 女性委員長 松橋様の挨拶の様子)



(↑ 筒井副委員長の報告の様子)

その後、パネリスト4名(宮城県、山形県、栃木県、石川県)による各県の建物の説明がありました。宮城県の石川さんはリモートでの参加でした。

宮城県: 角田市郷土資料館(旧氏文邸)
海商の館 旧亀井邸

山形県: 芭蕉、清風歴史資料館(旧丸屋・鈴木弥兵衛家)
旧風間家住宅「丙申堂」

栃木県: 日光田母沢御用邸
瀧澤家住宅

石川県: 金沢城公園玉泉院丸庭園 玉泉庵
武家屋敷跡野村家

【宮城県】

今回紹介する建物は、共に栄えた商家の邸宅であるが、内陸部と沿岸部と対照的な立地であるが、繊細な意匠が多用されている点が共通している。



(↑ 宮城県の発表の様子)

【山形県】

松尾芭蕉が奥の細道で一番長く滞在した尾花沢市の説明から始まり、今は芭蕉等の歴史資料館として活用されている、江戸時代からの建物が残っている事に感動すると話されました。雪深い尾花沢で一冬越える毎に倒壊していく空き家を見たとき、江戸明治の建物が永く残っている意味を改めて考える機会になったという事でした。

山形県から紹介の7件の建物を B5 版の折りパンフレットに作成して、会員以外の人にもお知らせするように、皆さんに渡していますとの説明を受けました。



(↑山形県の発表の様子)

【栃木県】

物件を選定するに当たり、「和の空間」とは何かを改めて考える事になりました。増改築や改修などを経てもなお伝統を残し、古くから人々に愛され残されてきた建物に何かヒントがないかという観点で選定を始め、その過程で建物の保存活用の重要性についても考えましたとの事でした。



(↑栃木県の発表の様子)

【石川県】

和の空間ガイドブックには多くの建物が紹介されていますが、近年で全くの新築建物の紹介となると数件しかなく、その中の一件が玉泉庵です。石川県や金沢市は「石川の伝統的建造技術を伝える会」や「金沢職人大学校」等を作り、伝統技術を守り伝える事をしているという説明を受けました。



(↑石川県の発表の様子)

各県とも、「魅力ある和の空間ガイドブック(WEB版)」を作成するに当たり、いろいろと試行錯誤しながら建物の選定をされていることがわかりました。



(↑会場の様子)

今回は対面とWEBとの併用での運営で、プロの方が携わっているということで、全建女の時のように音声が届いていないということはありませんでした。担当の皆様、ありがとうございました。



(↑受付の様子)

2, 景観・街中(空き家)まちづくり セッションに参加して

報告者:伊藤 麻子

会場:にぎわい交流館 AU 3階 多目的ホール

●「街中の再生まちづくりと景観～区画整理に向き合っ
て～」埼玉県建築士会 中野氏

古民家「旧セツ梅酒造」は「まち遺し深谷」の管理で13
件の店舗が入って運営されているが、この度市の区画
整理にかかり保存が困難となった。この問題に良いアド
バイスをいただけないか。意見→行政に理解を求め
続けるのが必要。建築士会は力がない？。

●「熊本市城下町エリアにおける街中再生の取り組み」
熊本県建築士会 豊永氏

NPO 熊本まちなみトラストで地域遺産活用に取り組み、
ヘリテージマネージャーも全国に先駆けて多く誕生した
が、H28年の地震で多くの被害が出て、経済的に保存
が困難になっている。そこで熊本市で「くまもと歴史まち
づくり計画」を策定し国からの補助金で保存を進めてい
る。

●「秋田杉を活かした景観まちづくり」
秋田公立美術大学 菅原氏

自身は成人してから秋田に住んだが、杉の良さにはま
り、「秋田杉恋プロジェクト」を発足、景観デザインセミナ
ー&コンペを行った。結果、秋田駅西口バスターミナル
の木質化に成功した。

セッションを終えて・・・其々発表の内容は興味深いも
ので、取組む課題には大いに共感しました。特に行政を
巻き込むことで補助金の活用を可能にしたり、活動の周
知を活発にしたりといった熊本の活動は進んでいる印
象でした。ただ今回の内容は歴史まちづくりの方に寄っ
ていて、もう少し空き家についての報告、議論が欲しか
ったと思います。

3, 福祉まちづくりセッションの報告

報告者:桂川 麻里

場所 :にぎわい交流館 AU 4階 研修室 1.2

出席者:福まち建築士 コメンテーター2名 (会場1名・
オンライン1名) 会場全出席者:38名



(↑セッション会場の様子)

福祉まちづくりセッションは下記の3部構成の盛りだく
さんの内容ですすみました。

第1部:国交省の「高齢期の健康で快適な暮らしのため
の住まいの改修ガイドライン」と

高齢者住宅協会『住まいの提案力UP 講座入門編・応
用編』

第2部:国交省「高齢者・障害者等の円滑な移動等に配
慮した建築設計標準」

第3部:社会から必要とされる存在に向けての意見交換



(↑発表の様子)

第1部は昨年度の全国大会で2019年に「高齢期の健康で快適な暮らしのための住まいの改修ガイドライン」を国交省が策定した話から、その中で定義されている「①長く健康に暮らせる住まい」、「②自立して自分らしく暮らせる住まい」、「③介護期になっても暮らせる住まい」、「④次世代に継承できる良質な住まい」ということが勉強できる良い講座があるという話が出て、高齢者住宅協会の『住まいの提案力UP講座』が紹介されました。それがオンラインで講座だった為、47都道府県の福まちなりのエリアリーダーで受講してみようということになりました。その報告を岐阜が発表することになり発表してきました。入門編は無料ですがテキストは自分でダウンロードして、手元においておくと役立つ内容がたくさん入っています。応用編は有料ですが、他の人の営業トーク的なことが聞ける貴重なチャンスだと思います。

第2部は「高齢者・障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」(※通称赤本)の改定の内容について説明して頂き、また本多さんはその内容に意見を言える立場である為、5年に一度程度に改正がある建築設計標準について、より良い意見等を福まちで募集しそれを伝えることをしていきたいとお話し下さりました。

その次にその赤本の改定内容について、国交省の担当の方による出張講座をオンラインで行なった神奈川にその時のお話をしてもらい、その時もオンラインであった為、全国の福まちリーダーにもお声を掛けて頂き、参加した方のお話も聞きました。そういう出張講座を岐阜でも利用できたらと思いました。

「公共建築のバリアフリーワークショップ開催の意義」については徳島の河村さんからお話しして頂きました。「鳴門市ユニバーサルデザイン点検会」を開催していて、点検についての内容を建物の管理者に伝えることで、全てが改善されるわけではないが、何度も行うことによって改善されていくことが分かりました。

「災害時における避難施設、障害者の避難について」は岐阜県が行っている「応急仮設住宅」の検証の発表をしました。全国各地で大雨や地震により「応急仮設住宅」で暮らす高齢者や障がい者はただでさえストレスをためがちですが、その軽減も出来るようなプランを福まち部会で出来ないかという呼びかけのきっかけになると良いということで発表させて頂きました。私自身は仮設住宅で暮らしたことがないですが、全国から意見が出れば実際に暮らしたり、身近な人が暮らしていたという話を聞いて暮らしにくさを改善できるプランが出来れば良いと

思います。全国から意見が出れば実際に暮らしたことがある方や、身近にいたことがある方の話を聞いて全国的に良いプランが出来れば良いと思います。

また、京都の「バリアフリー情報の発信と宿泊客の増加」についてお話し頂きました。この講演も福まち部会に紹介され、私も参加させて頂きました。この詳しい内容は別途下記URLを参考にしてください。

<https://www.gifukenchikushikai.or.jp/iinkai/machi/-2022-1/post-3378.html>

第3部は、愛知県の『医療従事者と建築士の連携～福祉の世界における建築士の守備範囲～』のお話をさせて頂きました。資料として「～医療従事者と建築士との新たな連携を目指して～」、「医療従事者と建築士との新たな連携を考える」、「既存住宅状況調査 福祉版 実施マニュアル」を頂きました。マニュアルは報告書の書式や図面を描くポイント等がとてもわかりやすい資料となっています。この活動は補助金を頂いて行った事業で、それをボランティアで終わらせるのではなくどう業務に繋げるかを考えながら進めたきたそうです。何件か行って「患者にあたりハビリ計画」「住環境の課題が分りやすい」等の付加価値が得られたので多職種の方々や建築士とも連携する大切さを理解して頂いたようです。岐阜では多職種連携がうまく進んでいません。愛知県では県内で終わることなく、成功例を持って、他県でも多職種連携が出来るようになって欲しいと思っています。「建築士って何をやる人？」と言われたいよう「福祉の世界における建築士の守備範囲」を建築士以外の方にも知ってもらい、高齢者や障がい者等が遠回りせずより良い生活を送って欲しいと思います。



(↑発表の様子)



(↑「医療従事者と建築士の連携」資料3部作)

続いて宮崎県で行っている「1.国民スポーツ大会施設への障害者等の意見の反映活動」、「2.宿泊施設バリアフリー化促進事業のバリアフリー相談」、「3.多様な人たちが宮崎観光を楽しむための情報収集活動」、「4.重度障害者住宅改修助成事業」の活動内容を紹介して頂きました。重度障害者住宅改修助成事業では工事の中の経費として設計料を受け取っていると書いていたのですが、設計料がないという訳ではないですが、介護保険制度でも設計料は経費としてしか名称が出てこないの、設計費として名称が出てくるシステムが必要ではないかと思いました。

また、九州沖縄自治体の高齢者障害者等に対する住宅改修助成制度について調べて発表して頂きました。助成制度の中で建築士が関わっているのは福岡県と福岡市、熊本県が相談を受けることになっているが、その他については助成金があっても建築士は関わっていないということが分かりました。関わっていないことで問題はないのかどうか等今後皆さんからの意見を聞いてみたいと思いました。

4. 歴史まちづくりセッション

全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会

に参加して

報告者: 高野 栄子

会場: アトリオン 4階 音楽ホール

私は今年度岐阜県のヘリテージマネージャー養成講座に参加しているので、タイムリーに興味のある歴史まちづくりセッションに参加しました。

セッションは秋田県内で、ヘリテージマネージャーとして活動している4名の方々が活動報告をされました。秋田県内の小坂町、大館市、秋田市、横手市で皆さん活発に活動して見えました。

特に印象に残ったのは小坂町の「明治百年通り」のお話でした。歴史的建造物の中でも「近代化遺産」という分野で、明治期の産業建築を中心として文化財登録をすすめられていました。「活用なくして保存なし」と言われるように保存と活用を両立させて、観光に活路を得ておられました。平成3年から徐々に計画を進め、ほぼ四半世紀に渡って活動をされ充実した内容で目標を達成されたようです。

秋田県の事例を伺うと、どの町のどの方もものすごい熱量で活動を語られます。しかも10年20年と長きに渡り活動されています。あまりの熱意に所定の時間を過ぎ、しっかり延長してのセッションでした。

岐阜県ではヘリテージマネージャーの制度もあやふやなまま現在に至りますが、これからはぜひ他県のように活動し、ひとつでも文化財として建物を登録し、保存、活用していくお手伝いが出来たらいいなと思いました。



■エキスカーション報告

エキスカーション 8コース

Aコース

世界文化遺産と十和田湖・秋田犬・歴史的建物を巡る

Bコース

秋田内陸縦貫鉄道でゆく・紅葉の大自然とマタギの里探訪

Cコース

木都能代と研究拠点を巡る

Dコース

日本海の水平線と世界文化遺産「なまはげ」を巡る

Eコース

匡の有形登録文化財を活用した事例に触れる

Fコース

「みちのくの小京都 角館」～江戸時代の武家町さんぽ～

Gコース

商家のまちなみと内蔵の探訪

Hコース

白井晟一 秋田時代を探る

GコースとHコースに参加

エキスカーション Gコース 報告

商家のまちなみと内蔵の探訪

報告者: 桂川 麻里



(↑見学冊子)

現在、岐阜県ヘリテージマネージャーの講習を受けています。その時に伝統的建造物保存地区の秋田県横手市の増田のことを聞きました。その時にお話や写真を見て行ってみたいと思っていたら、Gコースで行けることが分かり申しました。

事前に調べる時間がなかったのですが、今回上記写真の見学冊子を頂けました。伝建地区となった経緯や見学する建物一件ごとの詳しい内容が「横手市増田伝統的建造物保存対策調査報告書」から抜粋されて載せてありました。岐阜県からは3人参加していて、B班として「旧平石金物店(蔵の家)」、「重要文化財 旧松浦千代松家」、「日の丸醸造株式会社」、「重要文化財 佐藤又六家」、「指定文化財 旧石田理吉家」の順番に見学しました。



(↑商家のまちなみ)



前日のセッションの時に秋田県のヘリテージマネージャーの方がみえ(秋田県のヘリテージマネージャーは90名ほどいるそうです)、エキスカーションは増田へ行くと言ったら、以前は通りに面した部分がトタンの家がたくさんあったが、現在はだいぶきれいになっていると聞いていました。また、バスの中で事前に聞いた話ですと、現在は電柱が地中埋設工事が完了していると伺いました。この辺りでは初めて電気が通ったまちなので、電柱を残す残さないの議論がなされたそうですが、埋設されることになったそうです。

到着してからの最初の感想は、岐阜県近辺では見たことのない感じの街並みで、それはほとんどの建物が1階は下屋庇が1間出ている、2階は切妻造妻入だということが分かりました。

建物の中に入った感想は、通り土間の位置が少し違いますが、商家の造りだなという感じでしたが、内蔵は別物でした。私の中の蔵という倉庫のイメージですがそうではなく部屋として使われていて、結婚式等のお祝いをそこで行なったりするという話を聞いていて、更に写真でも見ていましたが「うわっ」という言葉しか出てこない感じの何とも形容しがたい空間でした。柱の間隔もどこの家でもとても大事にしている場所だということがよく分かりました。光を取り入れる為、通り土間は建物の中央ではなく南側に設けてありましたが、雪がたくさん降るとされるこの地域で雪が積もるとどんな感じになるかを見てみたいと思いました。



(↑日の丸醸造本社 内蔵の前で 岐阜県から参加の3名)

「旧石田理吉家」は他とは表は塀で囲われ前面には庭があり、そこを抜けると3階建てがドンと見える構成にな

っていました。花火を見るために3階建てにしたという話もあるそうです。3階は階高が一番高く、なんだか落ち着かない感じでしたが、周りが2階建てなのでここから花火を見たらとてもきれいだという印象を受けました。

今までのエキスカーションと同様に今回も普段は見られない建物の内部まで見せて頂きました。「旧松浦千代松家」は現在店舗等ではなく住宅としているので普段は見れないそうですし、事前に写真撮影はNGということでしたが、ご厚意で写真撮影もさせて頂きました。とても勉強になり、楽しい時間を過ごせました。

エキスカーションGコースに参加して

報告者:長瀬 八州余

午前中の見学を済ませ、「旧勇駒酒造旬菜みそ茶屋くらを」にて、昼食です。県別に席が決まっています、岐阜県3名は1階ロフトに案内されました。



(↑食事風景)

昼食は美味しかったです。



(↑お弁当)

午後からは、予定通り「横手市増田まんが美術館」へ行くか、そのまま町並み見学を続けてもよいと言われたので、桂川さんと私は町歩きを続けました。

今回午前中に見学した他にも、建物を開放している所は数件あり、そこを見学しました。

それぞれの建物は内蔵としては同じなのですが、それぞれが異なっていました。

【高橋茶舗】



【旧村田薬舗】



内蔵での生活は窓が無いので暗くて、冬は寒いですと話されていました。

【山吉肥料店】



つい最近蔵祭りがあり、その流れで、座敷にきれいに蔵の中の物が展示されている所が多く見られました。近日中に片付ける予定と話していただきました。時期的によい時に見学ができたのだと思いました。



(↑ 蔵の中の物の展示の様子)

「横手市増田まんが美術館」の駐車場にバスが止まっているので、そこに皆集合で帰路につきます。



(↑まんが美術館前にて)

JR大曲駅、秋田空港と寄り、JR秋田駅で解散です。

秋田県建築士会の皆様ありがとうございました。

エキスカーションHコース

「白井晟一 秋田時代を探る」

報告者:伊藤 麻子

孤高の建築家とも呼ばれる白井晟一の初期の作品は秋田県湯沢市に多く、今回良い機会を得て初めて訪れることができました。ご案内頂いた建築士会の方は、県に委託されて白井建築の調査を行いその後、保存のため尽力されていると移動の車中でお話してくださいました。またバスガイドさんからは、湯沢市は降雪が10mにもなる豪雪地帯だと説明がありました。ちなみに、車内では今回の大会での拠点になった「ミルハス」の呼び名の説明もありました。一般公募の結果だそうで、語源は久保田城址のある千秋(せんしゅう)公園に隣接しており、お堀は睡蓮で埋め尽くされていて、また「千」をフランス語で「ミル」であるので「千の蓮」イコール「ミルハス」ということでした。

初めは「四同舎(しどうしゃ)旧湯沢酒造会館」、白井様式といえる特徴的な窓の装飾とモノトーン+木調玄関ド

アのコントラストが美しい、小ぶりですが威厳のあるたたずまいでした。内部玄関ホールは曲線階段と窓からの光線で清らかな空間が表現されています。

続いて訪れたのは「試作住宅」(現在移築され個人所有)を外観のみ見学しました。これも平屋の小さな住宅ですが、緩い勾配屋根と庇のバランスが絶妙な美しい建物でした。

その後、高久酒造茶室、稲住温泉離れ客室、同じ旅館敷地内の浮雲と旧秋の宮村役場(外観のみ)を見学しました。内部は和室が多かったのですが、正式な茶室とは違い、畳に直接床柱立っていたり、付け鴨居に落とし掛けが差さっていたりと、実際に見るとその独創性に改めてショックを受けました。

のちの渋谷区松濤美術館や親和銀行本店のような大きな作品はないものの、丁寧に造られ、当時の人に大切にされ、その後もひっそりと時を重ねて守られていることを見せていただきました。



(↑四同舎 正面窓)



(↑四同舎 玄関ホール)



建物改修ワークショップ

「磯野家の25年後」

日時: 令和4年11月16日(水)

13:30~14:30

会場: OKB ふれあい会館 401 会議室

参加者: 対面 5名 + WEB 4名 計9名

形態: ハイブリッド(ZOOM ミーティング使用)



女性委員全員が福まち建築士ではないので、それに該当する私は凄く不安に思っています。

自己紹介後、フネさん、サザエさん役を決めて進めていきますが、設定の仕方、資料の大きさ、ポストイットの使い方等、いろいろな問題点が出てきました。

ワークショップには正解がないので、そのグループでの意見交換ができて、内容が深まっていけばよいと思っています。

できるだけ事前準備をして、スムーズにワークショップができればよいと思って大会に向けて準備をすすめていきたいです。



第6回 たくみ女子会

日時: 令和4年12月17日(土) 13:30~16:00

会場: OKB ふれあい会館 14階
天望レセプションルーム
(岐阜市藪田南5丁目14-53)

参加者: 約24名(内女性委員7名、参加企業7名、生徒6名、関係者4名)



■ワークショップに参加して

報告者: 長瀬 八州余

第4回女性委員会の前に、東海北陸ブロック会女性建築士協議会 令和4年度後期ぎふ下呂大会でおこなわれる、事業発表の練習として、ワークショップがおこなわれました。

大会当日、リモート参加は予定されていませんが、今回はできるだけ多くの方が体験した方がよいということで、ハイブリット開催となりました。

ファシリテーター(司会者)は、岐阜県建築士会が担当するということに決まっています。

(↑ 令和4年度 たくみ女子会 ちらし)



(↑お土産のお茶とお菓子(クッキー詰め合わせ))

■「たくみ女子会」に参加して

報告者: 宇佐美 泉

始めに、国際たくみアカデミーの校長先生および(公社)岐阜県建築士会 寺倉修副会長の挨拶後、会がはじまりました。

この会は、女性技能者と将来建設業界で働きたい女子学生等が交流し、女性目線で建設業界の魅力や現状の仕事環境等を発信して、女性の人材獲得を促進するという目的で開催されています。

今回は、アドバイザーとして、(株)市川工務店・内藤建設(株)・株式会社宇佐美組・大日本土木株式会社に勤務の女性技能者の方々と私たち女性委員のメンバーが参加しました。すでに、アドバイザーと女子学生でグループ分けができており、それぞれ雑談して本題に入っていました。

国際たくみアカデミーの渡辺孝之氏の説明後、各グループで自己紹介をすることになり、シートに「本当のこと(True)」を2つ、「本当でないこと(False)」を1つ書くという条件で各自記入しました。それを順番に紹介しながら、本当でないことをあてていくというリラックスしたグループトークを行いました。その後、学生さんからアドバイザーに質問したり、又こちらから将来の希望などをお聞きしたりして、和やかに会は進みました。それを席替えて2回行いました。

建設業者の皆さんは20代の方々と学生さんと年齢が近く、いろいろと質問しやすかったように思います。又、

1つのグループアドバイザーの人数の方が多いと話づらかったり、聞きづらかったように思います。もっと学生さんが参加されるとより盛り上がるのではないのでしょうか。



(↑受付の様子)



(↑寺倉副会長 挨拶の様子)



(↑グループとトークの様子)

建築士会東海北陸ブロック

会女性建築士協議会

令和4年度後期ブロックぎふ下

呂大会

日 時: 令和5年2月25日(土)～26日(日)

会 場: 1日目

定例会議(ハイブリット会議)

下呂市民会館 大会議室

(下呂市森 801-10 電話:0576-25-2252)

懇親会、宿泊

下呂温泉 水明館

(下呂市幸田 1268 電話:0576-25-2800)

2日目

ブロック事業発表(対面のみ)

水明館 緑風の間

参加者:

定例会議 対面:33名 WEB:6名 合計:39名

懇親会 33名

ブロック事業発表 35名



(↑二日目岐阜県参加者で集合写真)



(↑会議のお菓子 下呂「養老軒」栃の実せんべい、「彩菓堂」下呂温泉まんじゅう
お茶「白川園本舗」ほうじ茶)

■ぎふ下呂大会に参加して

報告者:長瀬 八州余

青年建築士協議会が静岡県で開催される時、女性建築士協議会は静岡県か運営委員長の在籍県かどちらかを選ぶことができます。今回は運営委員長が岐阜県だったので、岐阜県で開催となりました。

令和2年度前期会議を岐阜県古川で開催予定でしたが、コロナ禍でWEB会議となりました。今回リベンジということで、飛騨市古川町でと検討しましたが、宿泊等の関係で、別の場所ということになり、いろいろ検討した結果、下呂になりました。

ハイブリッド会議にしようということになり、下呂市民会館では夏と直近で2回会議を開きリハーサルをおこなっていました。

岐阜県女性委員会担当副会長の狭場さんは飛騨支部所属なので、今回石黒会長と下呂の担当支部長の大塚さんと3名の方が、二日間大会に参加して下さいました。これは、初めての事だと思います。石黒会長は、「女性協議会はちゃんと会議等をしているのですね」と感心していました。役員の方に女性委員会の活動をしっかりアピールできたのではないかと思います。

1日目 下呂市民会館 大会議室にて後期定例会議を開催しました。
 午前中に集まり、会場設営等を行います。
 昼食はお弁当を予約していました。



(↑ 会場設営の様子)



(↑ 受付の様子)

ハイブリッド会議で音声が届いていない等、不手際は多々あったとおもいますが、終了時間をオーバーすることなく終了できてよかったです。



(↑ 昼食のお弁当、右上に写っているのは会議のお菓子です)



(↑ 会議の様子)

会場を水明館に移して、チェックインをして懇親会までの間に、水明館の館内見学を参加自由でおこないました。水明館は至ると所に、有名作家の作品が展示されています。



(↑ 岐阜県の皆で昼食の様子)



(↑ 水明館 館内見学の様子)

感染者数が減ってはいますが、コロナ禍なので、懇親会は、90分間として、余興もなく、閑かな宴会だったと思います。それがザワザワしなくて、よかったように思います。

連合会の女性委員会で作成して、全建女・全国大会あきた大会と展示されたパネルが、連合会から東海北陸ブロックの運営委員長のもとに送られて来ました。今回、各県に渡すことになりました。懇親会場で展示をしました。



(↑ ワークショップでの発表の様子)

閉会式では、次回の前期(富山県)と後期(愛知県)の紹介と共に、全建女石川大会の紹介もおこなわれました。大きなトラブルもなく終了することができたと思います。



(↑ ポスターセッションで活躍したパネル)

期間限定ではありますが、土曜日の夜に河原で花火が10分間上がります。皆さんそれぞれの場所でご覧になったようです。9階の天望風呂で女性風呂から花火を見ることができるということで、私はお風呂から楽しみました。

時間の少し前に係の方が「照明を落としますね」とのアナウンスがあり、対岸の建物の照明も一部消されたように見えました。花火は水明館の為に上がっているように感じるほど、正面に上がってきて、目の高さで広がります。ドンドンという振動を感じることはありませんが、きれいで楽しい時間でした。

外の橋から見学した人は、寒かったと言っていました。

2日目 朝食はバイキングでした。品数も多く美味しかったです。

ブロック事業発表でのワークショップは懇親会のテーブルでのグループ分けでほとんど変わらずにおこなったので、皆さん和気あいあいとできたのではないかと思います。



(↑ 全建女石川大会の紹介の様子)

岐阜県はご苦労さん会を兼ねて、下呂市内で昼食をいただいて、解散となりました。



(↑ 昼食(イタリアン)の様子)

今回参加して下さった皆様、ありがとうございました。

大会準備にたずさわった岐阜県の皆様お疲れ様でした。

■後期会議に参加して

報告者：高野 栄子

2月25日(土)に岐阜県下呂市で後期ブロック会議を開催しました。今年度岐阜県が監事県として、会議を運営いたしました。

じっくり時間をかけて準備しましたが、当日はなにかと行き届かないところもあり反省点も多々あったと思いますがとにかく終わって良かったという思いです。

会議では例年のように各県の事業報告があり、ブロック協議会の運営について細かい所までじっくりと話し合いが出来ました。

対面でも向き合って話し合いが出来たことで、皆さんの意見の内容もよくわかりより詳しく協議事項について理解しました。

主な協議事項は

- ・全建女石川大会について
- ・繰越金の用途について
- ・マニュアル、申し合わせ事項の内容について
- ・次回前期富山会議について
- ・次回後期ブロック愛知大会について

でした。

進行はスムーズで予定通りにきっちり終わりましたが、やはりハイブリッドの会議に慣れていないためいろいろとトラブルもあり、今後の会議の課題になりました。

準備から皆さんで取り組んできた事業はまずまずの成功だったと思います。

ご協力頂きました委員の皆さんに心からお礼申し上げます。



(↑ 会議後の集合写真)



(↑ 高野委員長 挨拶の様子)

■水明館 館内見学会

報告者 伊藤 麻子

1日目の下呂市民会館での会議終了後、水明館に各自で移動しチェックインし、午後5時に希望者はロビーに集合しました。

担当の方のご案内で水明館内の能舞台と茶室周辺を見学させていただきました。参加者は23名でした。

日本の名泉にあげられる下呂温泉の中でも、水明館は老舗で格式の高い旅館とされていますが、なるほど

温泉やサービスもさることながら、館内の美術工芸品がいたるところに展示されていて、アミューズメントパークのようです。

各所の美術工芸品に目を奪われながら、大きな吹抜け空間のエスカレーターを上がり、なおも進んでいった先に大広間があります。そこに能舞台が設えてありました。

舞台は大きなFIX窓を介して、美しく手入れされた庭園に面し、大変気持ちの良い空間でした。そこで過去には定期的にお能が上演されていたようです。

その後庭園に出て通路を行くと茶室が見えます。残念ながら、立ち木で正面がよくわかりません。また更に奥は特別室で当日は宿泊者があるとのことで、その前庭に立ち入ることはできませんでしたが、静かなたたずまいを感じました。

館内の造作も全て贅沢に工夫されていて、内装材や納まりについてもゆっくりと鑑賞できました。



(↑ 能舞台をバックに集合写真)



(↑ 見学の様子)



(↑ 遠くから茶室を眺める)

■ 【懇親会】 報告

報告者: 田中 佐企

18:00 より、水明館 緑風の間において懇親会が行われました。

今回はコロナ禍であることを鑑み、レクリエーション等は行わず 90 分のお食事会という形式でした。

●司会:(公社)岐阜県建築士会女性委員会

伊藤麻子

●挨拶:(公社)岐阜県建築士会 副会長

狭場芳男

●乾杯:(公社)岐阜県建築士会 飛騨支部長

大塚則幸

●記念写真撮影(集合写真)

皆様にごゆっくりお食事を楽しんでいただくために集合写真は食前に撮影しました。



(↑ 懇親会集合写真)



(↑ テーブル松)



(↑ テーブル栢)



(↑ テーブル檜)



(↑ テーブル杉)



(↑ テーブル榎)

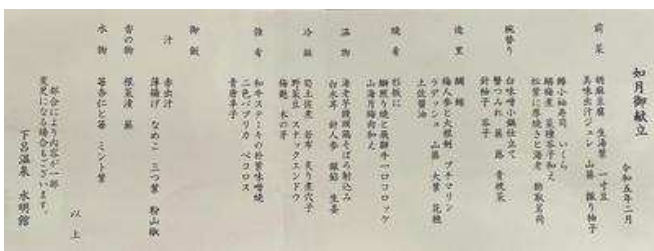


(↑ テーブル絵)

参加者 33 名が桧、杉、檜、松、栢、榎(さわら)の 6 テーブルに分かれて座ったのですが、私達のグループは皆様何十年と建築士会や協議会に携わってみえる方ばかりでこれまでの大会の思い出話や苦労話に花を咲かせていらっやいました。初参加の私には大会の仕組みや他県の皆様の取り組みなどを知る大変貴重な機会となりました。

レクリエーション等の催しはなかったものの、このようにお話をたくさん交わせたことで素敵な懇親会になったと思います。

また、御臈頂の料理長のお食事を楽しむためにこの水明館に宿泊されるお客様もいるというだけあって、大変美味しいお料理を堪能させていただきました。参加者の方々も「おいしい、おいしい！」というお声があちらこちらで飛び交っていました。



(↑ 献立)



(↑ 前菜)



(↑ 焼肴)

■ブロック事業発表第 1 部の報告

報告者:岡田 利里

1部は、下川さんによる、『福祉まちづくり建築士』の事業報告でした。

岐阜県建築士会の中にある『まちづくり委員会』の中に『福祉まちづくり部会』があり、女性委員も多く活動しており、エリアリーダーを女性委員が担当しています。

活動内容は、地域包括支援センターをはじめ居宅介護支援センター、市町村等の相談に対応したり、「もとす広域連合」、「揖斐広域連合」と連携し、介護保険制度における住宅改修が適切に行われるように、助言、職員の育成などを行っています。

介護保険給付の申請図面では、建築士が作成した図面でない場合、手すりが連続していない、局部的な改修しかされていない、寸法の記入がない等の、上手くいっていない場合もあるため、それらを指摘し、適正な住宅改修を行えるようにすることも福祉まちづくり建築士の仕事です。

これらの取組みの中で、今回のワークショップで行う『25年後の磯野家』が生まれたということです。

参加者35名、前日の懇親会と同じ緑風の間で、グループもほぼ同じでしたので、和やかな雰囲気ですスムーズに進みました。



(↑ 会場の様子)

■ブロック事業 第2部

「25年後の磯野家 改修プロジェクト」ワークショップについて

報告者: 井之口 洋子

あのテレビでおなじみのサザエさん一家を基に改修するならどうする? というテーマで5~6人のグループに分かれてのワークショップでした。

グループ内でサザエさん、フネさん、カツオくん、マスオさん、という役になりきってもらい、岐阜県はファシリテーターと書記を務めました。

まずはファシリテーターの誘導でそれぞれに不安、要望や意見を出してもらいます。

皆さんに出してもらった後は、どのような改修案にしていけるかの議論に移りました。

私が参加した杉グループでは今まで自宅にお金をかけていなかったであろうという想定で波平さんの遺産も合わせてある程度は予算があるのではないかと予想しました。

そうなると、和室がある部分など平屋とはいえ耐震補強したいとの意見が出ました。

補助金が出るのではないだろうかということもあり、耐震・断熱改修も合わせた住みやすい家にしよという意見で一致しました。

間取りは大きく変更するのではなく、今の部屋を基本として和室から洋室へ変更。WCを1つ増築。耐力壁も入れて、屋根も瓦葺からガルバリウム鋼板などの軽い屋根へと葺き替え。

ただし、フネさんとサザエさんが立つ台所の位置を変更して対面型キッチンの設置とちゃんとタラちゃんの帰省に備えることにしました。

せっかくの縁側はそのまま生かし、将来的にこちらからフネさんは外出できるようにすることにしました。そのため道路面のブロック塀を撤去して駐車スペースを作るとにしました。

水廻りのWC、お風呂、洗面はもちろんバリアフリーになるよう改修します。



(↑杉グループの発表の様子)

グループごとのワークショップが終わった後は発表です。

他のグループではどんな意見が出たのか楽しみでした。

檜グループでは予算がシビアではないだろうかと予想されて、水廻りの改修では手摺を設置することや部屋の段差を解消するために畳からフローリングへの改修を提案されました。



(↑ 松グループの発表の様子)

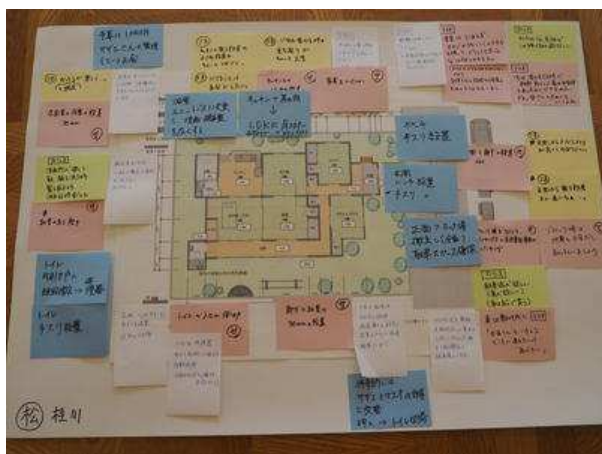
栃グループではまだまだ元気に過ごしていきたいというフネさんの希望を叶えようということでした。板敷になっている部分を畳に合わせて+30mmの床改修。2つ目のWCを物入を改修して設置。こちらも送迎用の駐車スペースを作るようになっていました。



(↑ 榎グループの発表の様子)

松グループでは予算1000万円と具体的に決めて、浴室、WCを改修することはもちろんですが手すりなどの位置を細かく決めていました。駐車スペースを確保。カツオくんが車購入予定でした。

そして、印象的だったのが将来はサザエさんとマスオさんの部屋をフネさんの部屋と交換して押入をフネさん専用のトイレ改修をするという事でした。



(↑ 栃グループの発表の様子)

榎グループでは現状フネさんの状態はまだ頑張れるという事で工事を2回に分けて行う計画です。

1期工事はお風呂、洗面、WC、広縁のサッシ取替、駐車場スペースを2台分確保。2期工事ではWCの増設、サザエさんとマスオさんの生活の快適化を優先し、家の耐久性を上げていく内容。

印象的だったのが、2回に分けるので費用もそれなりにかかるだろうという事で、カツオくんが正社員になるよう職探しを始めるとのことでした。



(↑ 榎グループの発表の様子)

グループの発表は簡単な紹介になってしまいましたが、それぞれに共通している部分もありましたが、そこへ至るまでの経緯が結構違う部分もあり新鮮でした。

最後に今回のワークショップを高野さんが総評してくださいました。全員が建築士という事もあって、全体的に大胆な改修案だったそうです。福祉関係の方が多い場合との違いを話されました。



(↑ 高野さんの総評の様子)

色々な意見が聞けたことは大変勉強になりました。今回は磯野家という誰もが知っている家庭で、人物像も容易に思い浮かべることができたことが、活発な議論につながったのではないかと思います。

普段は福祉にかかわる仕事はしていませんが、住む人の要望や予算などハード面とソフト面を聞き取りすることの大切さにも気づかされました。



第21回 気楽にらくだ会

岐阜県庁新庁舎の見学会

日 時: 令和5年3月1日(水) 10:30~11:45

見学建物: 岐阜県庁新庁舎(行政棟・議会棟)

集合場所: 行政棟1階総合受付前

参加者: 13名

スケジュール

10:30~11:45 見学会

12:00~13:30 会食(木曾路 岐阜店にて)



(集合写真)

■新県庁舎見学に参加して

報告者:津川 文江

1966年に建設された第4代目県庁舎が老朽化し、災害対策の拠点として耐震性を確保できないため隣地に新県庁舎が建設されました。当日は、県の職員の方2名の詳しい説明を聞きながら見学しました。

通常建物の1.5倍の耐震性を確保し揺れを軽減させる免震装置を設置、環境負荷やライフサイクルコストを低減させるよう自然採光や太陽光を活用し、バリアフリーに配慮して誰もが安心して利用しやすい庁舎となっているそうです。

又、この建設には、隈研吾氏が岐阜県庁デザインアドバイザーとして務められたそうです。

県庁舎は行政棟と議会棟からなり、行政棟は地上21階・塔屋2階 鉄骨造、議会棟は地上6階 鉄骨造で外壁は、岐阜県産タイルです。

内装は、ぎふの木や 県産品の恵那石・郡上石等のぎふの石、美濃焼タイル、美濃和紙、飛騨の家具などを活用しています。

1階のエントランスホール内装では、すべて県産材を使用し桧の大和張り、桧のルーバー 床タイルで、桧を千鳥格子に、ひときわ目を引く総合案内カウンターがあります。



(↑ 受付カウンターまわりの様子)

ミナモホールホワイエの壁には、高山市の左官 挟土秀平氏の大作(10mx4m)で飛騨の祭り屋台の「紙吹雪」と美濃の鶯飼いのかがり火の「火の粉」が舞う様

が表現されており、その造形の迫力に驚かされます。



(↑ ミナモホールホワイエ見学の様子)

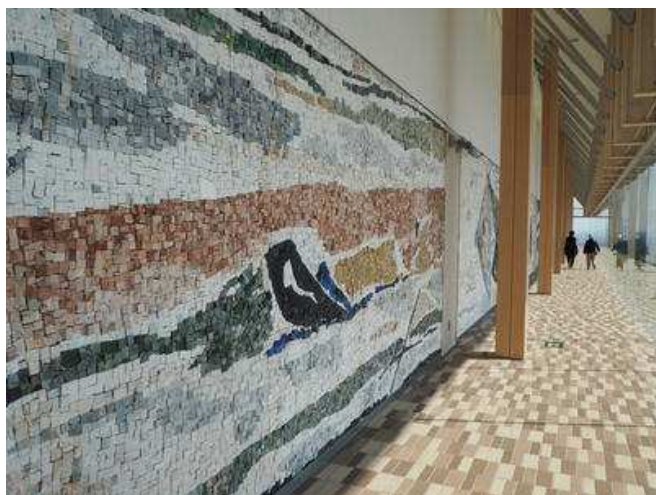
行政棟20階には、東西100m、南北30mの岐阜市を一望できる展望ロビーがあり、岐阜県産の椅子やソファ等 飛騨の家具が配置されています。又、日本の大理石モザイク壁画の第一人者 矢橋六郎の作品「春夏秋冬」が第4代目庁舎から移設されております。



(↑ 展望ロビーにて)



(↑ 展望ロビーと家具)



(↑ 大理石モザイク壁画)

今まで県庁は用事のある人しか来ない場所でしたが、20階の展望ロビーでのパノラマや、モザイク壁画を堪能するために多くの人が訪ねることと思います。

続いて議会棟の方へ行く途中、「ぎふ結のもり」に植栽した桜の木についての説明や災害時の防災井戸・かまどベンチ・マンホールトイレの説明を受けました。



(↑ 説明を受けている様子)

議会棟2階情報コーナーの天井には、ヒノキ材を柱状にカットしたものを天井に取り付けてありました。壁には、ステンドグラス製作者として活躍した木内真太郎の作品も移設されています。



(↑ 会議棟 2階 情報コーナー)

1階の壁には、加藤孝造氏製作の陶壁を移設してあります。「さきがけ」という名です。



(↑ 陶壁の説明を受けている様子)

新庁舎は内装だけでなく見ごたえのある作品が多くあり、静寂の県庁舎ではなく賑わいのある県庁舎になっていると思います。

もう一度行ってみたいくなりました。

■気楽にらくだ会に参加して

報告者:長瀬 八州余

今回の「気楽にらくだ会」はコロナ禍ということもあり、女性委員会だけの集まりとしました。

10時20分に、1階受付に集合ということで、ポチポチ女性委員が集まっていたら、石黒会長がエレベーターから降りてみえました。女性委員会の新庁舎の見学会と説明をしたら、急遽参加される事になりました。

県庁からの説明の方は2名ですが、1名は女性委員の方です。

セキュリティ対策がしっかり取られていて、一般エリア、来庁者エリア、執務エリアと3つに分けられており、今回

は一般エリアのみの見学会となっています。

見学ルート:行政棟1階→行政棟20階→行政棟3階→行政棟2階→連絡通路よりぎふ結のもり→議会棟2階→議会棟1階

新庁舎の見学会後 場所を木曾路 岐阜店へ移して、会食会と女性委員会をおこないました。

委員会は、主にブロック後期ぎふ下呂大会の反省をおこないました。

食事は、美味しく、和気あいあいの内にお開きになりました。



(↑ 会食の様子)



(↑ 会議の様子)



編集後記

50号をお届けします。

令和4年度後期(10月~3月)の報告となっています。対面での行事等が多くなりました。

委員会も第4回、5回、6回ともハイブリッド会議で行いました。

今回は「チューリップ」をマークに使用しましたがいかがでしょうか

皆様からの投稿はいつでもお待ちしております。また、編集参加、問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員(長瀬)

公益社団法人 岐阜県建築士会

岐阜市藪田南5丁目14番地12号

岐阜県シンクタンク庁舎4階

TEL 058-215-9361 FAX 058-215-9367

<http://www.gifukenchikushikai.or.jp/>

E メールアドレス kensi578@juno.ocn.ne.jp

※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します

